

環境活動レポート

2010年版

(2010年1月～12月)

制定年月日：平成23年2月27日

有限会社 山田自動車

〒816-0922 福岡県大野城市山田2丁目13-1

[TEL]092-501-5678

[FAX]092-501-5670

＝ 目次 ＝

I.事業活動の概要	1
II.環境方針	2
III.環境目標とその実績	3
IV.環境活動計画の取組結果とその評価・ 次年度の取組内容	4
V.環境関連法規への違反、訴訟等の有無	8
VI.代表者による全体の見直しの結果	8

I 事業活動の概要

事業所名

有限会社 山田自動車

代表取締役

安武 好博

所在地

〒816-0922 福岡県大野城市山田2丁目13-1

道路を隔てて倉庫兼駐車場がある。

(〒812-0872 福岡県福岡市博多区春町3丁目40-2)

環境管理責任者

安武 好博

連絡先

092-501-5678

事業内容

自動車整備・钣金塗装・

新車／中古車販売・

損害保険取扱

事業の規模

資本金 800万円

社員数 30名

事業所数 1ヶ所

設立 1952年7月

敷地面積 1,957.05㎡

本社工場 1660.84㎡

倉庫兼駐車場 296.21㎡

Ⅱ 環境方針

基本理念

当社は「車社会において安全整備の創造企業として、社会が求める安全で豊かなカーライフに貢献する」ことを使命として企業活動を展開しています。

この企業活動が環境問題との関わりや環境への影響度合等の視点から環境問題取組の基本方針を定め、地域環境や地球環境の保全活動に自主的かつ積極的に取り組むことを宣言します。

環境方針

1. 企業活動が環境に与える影響を認識し全社員で環境改善に取り組んでいきます。
2. 全社員に環境方針の理解と環境保全の意識向上を図ります。
3. 環境に関する法律・規制・条例及びその他の関連する規約を遵守します。
4. 企業活動を通じ省資源・省エネルギー及び廃棄物の削減・リサイクルを推進します。
5. 環境保全活動にあたり、環境方針及び目標を設定し定期的な見直しを行います。
6. 地域社会とのコミュニケーションを大切にして、地域の環境保全活動に協力し、支持される企業を目指します。

制定日：2008年7月20日

有限会社 山田自動車

代表取締役 安武 好博

Ⅲ 環境目標とその実績

- ① 下記の項目における、当社の過去1年間の実績は以下の通りです。

	2010年度(1月~12月)
CO2排出量(総量 kg-CO2)	96,025
廃棄物等発生量(トン)	42.5
水使用量(m ³)	942
地域貢献活動の実施(回/年)	13
グリーン購入(増加品目)	2
エチレングリコール使用量(t)	2,102
リサイクル部品の推進・購入金額(円)	5,933,084

電気の二酸化炭素排出係数は0.378 kg-CO₂を使用した

- ② 2010年度以降の目標

- CO₂排出量を2009年度の実績より1年間で1%、3年間で3%を削減する。(2010年度よりガソリン・軽油・灯油・LPGも削減目標設定)

目標値(年間総量)	単位	2009年度	2010年度 (1%削減)	2011年度 (2%削減)	2012年度 (3%削減)
電気	Kwh	152,829	151,301	149,772	148,244
ガソリン	ℓ	1,189	1,177	1,165	1,153
軽油	ℓ	5,637	5,581	5,524	5,468
灯油	ℓ	190	188	186	184
LPG	Kg	50.8	50.3	49.8	49.3
CO ₂ 排出量換算	kg	75,949	75,189	74,430	73,671

電気の二酸化炭素排出係数は0.378 kg-CO₂を使用した

- 廃棄物排出量を2009年度の実績より1年間で1%、3年間で3%を削減する。
- リサイクル部品の推進(購入金額を把握して意識付けをする)

目標値 (年間総量)	単位	2009年度	2010年度 (1%削減)	2011年度 (2%削減)	2011年度 (3%削減)
一般廃棄物排出量	t	10.120	10.019	9.918	9.816
産業廃棄物排出量	t	24.799	24.551	24.303	24.055

- ・ 水使用量を 2009 年度の実績より 1 年間で 1 %、3 年間で 3 %削減する。

目標値 (年間総量)	単位	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
水使用量	ℓ	1, 030	1, 020	1, 009	999

- ・ 地域貢献を積極時に実施する
- ・ 資源回収（毎月）清掃活動（毎朝）をする。

目標値 (年間回数)	単位	2009 年度	2010 年度 資源回収のみ	2011 年度 資源回収のみ	2012 年度 資源回収のみ
地域貢献活動の 実施(資源回収)	回/年	13	12	12	12

- ・ グリーン購入を毎年 1 品目、3 年間で 3 品目増やす
- ・ 自動車リサイクル部品の推進(購入金額を把握して意識付けをする)

目標値	単位	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
グリーン購入	品目数	—	1	2	3

- ・ エチレングリコールの使用量を 2009 年度の実績より 1 年間で 1%、3 年間で 3%削減する。

目標値	単位	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
エチレン グリコール	t	1. 783	1. 765	1. 747	1. 730

IV 環境活動計画の取組結果とその評価・次年度の取組内容

(1) 目標を達成するための本年度の取組

① CO₂排出量の削減

- ・ 外部看板の夜間照明を 21 時で消灯する。
- ・ エアコンの温度設定を夏場 26℃以上、冬場 21℃以下とする。
- ・ エアコンと扇風機を併用する。
- ・ エアコンフィルターを毎月清掃する。
- ・ 使用していない場所の電気の消灯を実施する。
- ・ 急発進しない・法定速度を守る等の安全運転の励行。

- ロードサービス時の待機時や作業時に不要な場合はエンジンを停止する。
 - 社用車の適切な車輛整備をする。
 - 冬季昼休憩時にはストーブを消す。
 - 湯沸し器の温度設定をする。
 - 湯沸し器の夏季使用禁止。
- ② 廃棄物排出量の削減
- 部品を交換せずに修理台数を増やす。
 - リサイクル部品の推進。
 - ダンボール・チラシ・雑誌を廃品回収に出す。
 - コピー用紙の両面印刷の徹底。
 - コピー機使用後のリセットボタンの徹底
- ③ 水使用量の削減
- 水を出しっ放しにしない。
 - 節水の張り紙をする。
 - 配水管等から水漏れを発見したら社長に報告する
- ④ 化学物質使用量の削減
- ラジエーター液の濃度を基準値で使用する。
 - 化学物質含有量の少ない製品を探す。
- ⑤ グリーン購入の推進
- 事務用品のグリーン製品購入（購入品目を増やしていく）。
 - リサイクル部品の推進。
- ⑥ 地域貢献活動の実施
- ダンボール・チラシ・雑誌を老人会の資源回収（毎月）に出す。
 - 会社敷地前の道路の清掃（毎朝）する。

(2) 環境活動の取組結果とその評価

① 1年間の運用の結果（2010年1月～12月）

	1年間の結果	1年間の目標	達成状況(達成率)
電気の二酸化酸素排出量 (CO2 排出量換算<k g>) (電力:(KW) 使用量) 2009年度実績比2%削減	62,986 (166,629)	57,191 (151,301)	89.9%
化石燃料の二酸化酸素排出量 (CO2 排出量換算<k g>) 2009年度実績比2%削減	33,039	17,998	16.4%
合計二酸化炭素排出 (CO2 排出量換算<k g>) 2009年度実績比2%削減量	96,025	75,189	72.3%
産業廃棄物(t) 2009年度実績比2%削減	31.896	24.551	70.1%
一般廃棄物(t) 2009年度実績比2%削減	10.590	10.019	94.3%
総廃棄物排出量(t) 2009年度実績比2%削減	42.486	34.570	77.1%
水使用量(m ³) 2009年度実績比2%削減	942	1,030	107.6%
化学物質使用量(t) エチレングリコール使用量 2009年度実績比2%削減	2.102	1.765	80.9%
グリーン購入推進(品目) 毎年1品目ずつ増やす	2	1	200.0%
地域貢献活動の実施(回)	12	13	108.3%
リサイクル部品の推進 購入金額の把握(円)	5,933,084	購入金額の把握	—

電気の二酸化炭素排出係数は0.378を使用した

② 評価

CO2(電気)の削減について

【未達・原因】

- ・ 作業内容・作業量(特に钣金修理)に応じて増加している。

【改善策】

- ・ 使用していない場所の消灯や空調設備の使用を減らす。

CO2（化石燃料）の削減について

【未達・原因】

- ・ ロードサービスの増加及び講習会への参加による車輛使用による増加。

【改善策】

- ・ 車輛運転時の安全運転の励行。
- ・ ロードサービス待機時及び納車引取時のエンジン停止の徹底。

廃棄物排出量の削減について

【未達・原因】

- ・ 作業内容・作業量（特に钣金修理）に応じて増加している。

【改善策】

- ・ できる限り交換部品を減らし修理する台数を増やすようにする。
- ・ 削減以外にもリサイクル部品を活用する。

水の削減について

【達成・原因】

- ・ 意識付けを徹底した。

化学物質使用量の削減について

【未達・原因】

- ・ ラジエーター液交換の増加に応じて増加している。

【改善策】

- ・ 化学物質含有量の少ない製品を探す。

グリーン購入推進について

【達成・原因】

- ・ 事務用品カタログからグリーンマークの物を購入した。

地域貢献活動の実施について

【達成・原因】

- ・ 資源回収への意識付けの徹底（当番制実施）
- ・ 地域の公園の掃除を実施した。

(3) 目標を達成するための次年度の取組

- ・ 前年と同様の取組をする。また新規に下記の取組を追加する。
 - ① CO2 排出量の削減の取組では、社用車の適切な車輛整備をする。
 - ② 廃棄物排出量の削減の取組では、コピー機使用後のリセットボタンの徹底。

V 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

(1) 適用される主な環境関連法規

- 水質汚濁防止法（適）
- 下水道法（適）
- 騒音規制法（適）
- 高圧ガス保安法（適）
- 自動車リサイクル法（適）
- PRTR 法（適）
- 廃棄物処理法（適）
- 消防法（適）
- 振動規制法（適）
- 悪臭防止法（適）
- 労働安全衛生法（適）
- フロン回収破壊法（適）

(2) 違反、訴訟等

2010年において、環境関連の違反、訴訟等はありませんでした。尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

VI 代表者による全体評価の見直しの結果

廃棄物削減はリサイクル部品使用数を増やすことで比較できないか再考する。
ガソリン・軽油によるCO₂削減は燃費等による比較ができるか再考する。
化学物質使用量削減はラジエター液の交換数に応じて増える為、削減するには化学物質の含有量が少ないラジエター液を探すことを引き続き実行する。

以 上